

---

# 雨の降る日は温かく

シェング

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨の降る日は温かく

### 【Nコード】

N5392K

### 【作者名】

シェング

### 【あらすじ】

アリスと魔理沙のちょっと甘い話。

## **(前書き)**

東方projectの二次小説です。

キャラ崩壊が嫌な方、二次小説が嫌いな方は、速やかに戻ることを  
お勧めします。

霧雨魔理沙の体調は最悪だった。身体は芯から燃えていて、視界が歪んで見えるほどの重症だった。

「熱い……だれ……か……」

その声は誰にも届くことはなく、部屋からの残響のみだった。外からは雨の音が聞こえた。ただでさえ、魔法の森に踏み入れる者は少ないと言うのに雨が降っては尚のことである。

身体の底が熱いため、汗がジワリと衣服を侵食していく。さらに熱も奪っていき、時間が経てば経つほどに寒くなってくるという始末だ。

水分だけは取っているが、これでは徐々に体力は尽き、風邪も長引いてしまう。風邪が初期段階ならば、永遠亭まで行き診察をしてもらうと言うのも手なのだが、今ではそれも望めない。

本格的にやばいと魔理沙は感じ始めていた。身体を起こすことから重労働に感じる。衣服から伝った汗はシーツを濡らしていく。着替えるにも寒いし、身体は動かない。何より火が使えない。布団にくるまっても布団が濡れてしまい、さらなる負のスパイラル。

雨は魔理沙の家のドアを叩きつけていた。規則正しいリズムで二回ずつドンドン、ドンドン……と。非常に耳に残る音だ。これじゃあ眠れもしない。悪態をつく魔理沙。ただ、動けないので、どうにもならない。音はまだ止まらない。

うるさいリズムが止まった。これで寒いけど眠れると思った魔理沙。だが、次の瞬間ドアが鈍い音と共に壊れて行った。これには病気の魔理沙も驚き、両手について身体を起こし、眼を見開いた。

「風邪をひくなんて、あんた未熟すぎるわ」

続いてシャンハイと聞こえてくる。声の主は同じく魔法の森に住む、違う魔法使いアリス・マーガトロイドだった。会った瞬間から悪態をつくアリス。裏を返せばそれだけ心配なのだろう。人形と見間違ふほどの綺麗な金髪は雨に濡れていて、ランプにとまった灯が反射し目を眩ませる。魔理沙の家に入った彼女は、膝に手をつき、息を切らしていた。

「上海。すぐに魔理沙を着替えさせて。シーツの取り換えも急いで」  
「おい、馬鹿、やめろ！」

抗う魔理沙もなんのその、上海人形たちは魔理沙を取り囲み次々と衣服をはいでいく。あーれーと部屋に絶叫が響いているが、アリスは全く気にしている素振りを見せない。数分後、着せ替えの終わった魔理沙と綺麗なベッド、そして部屋の隅で泣いている魔理沙が一人。

「うう……もうお嫁にいけないぜ……」

「はいはい、そんな馬鹿なこと言ってないでとっとと布団に入る」  
渋々と布団に入る魔理沙。それを見てため息のつくアリス。外はまだ、雲から降りそそぐ冷たい液体の数々。これではアリスも家に帰ることはできないだろう。何よりも、この状態で魔理沙を放っておけないと彼女は思ってしまったのだから。

ひんやりとした手を魔理沙のおでこに密着させる。

「わひゃあ！」

「そんな変な声出さないの。まだ熱はあるわね」

当てた手はまだ熱気を残していた。変な声を出したお仕置きとして、魔理沙の体温の残った手を握り締めて、でこぴんをした。

うぐぐ。と何か言いたそうな顔を魔理沙はしていたが、アリスは無視をしてキッチンに向かった。

ああ、素晴らしきかな上海人形。準備はすでに整っており、後は

温めるだけだった。

出来た料理はシンプルなおかゆ。温かいこの料理は食べた者の体温を上げてくれるという素晴らしいものだ。

「はい、ほら魔理沙。口を開けなさい」

「辛いぜ……」

飲み込むのが見えているアリスでもわかるくらい、辛そうだった。喉を通すのも一苦労と言ったところか。

「じゃあ口移しでどうかしら」

「ばっ、馬鹿を言うな！」

顔を急激に紅に染めていく魔理沙。それを見て笑うアリス。冷たい雨が降る中、部屋の中は暖かく温かかった。

## (後書き)

ちょっとアリマリもいいと思ったから書いてみた。

私のサイトです。興味がちよつとでも湧いたなら来ていただけると有り難いです。

<http://shengnovel.blogspot.fc2.com/>

ちなみに、この小説は「東方創想話」様にて投稿させていただいた作品です。ご了承ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5392k/>

---

雨の降る日は温かく

2010年10月21日23時53分発行